

第1回企画部会 委員発言要旨（未来創造・地域社会部会関係）

| 発言者 | 発言要旨 |
|-------------------------|---|
| 豊田哲也委員 (教育・人づくり部会) | 文部科学省で推進している「ギガスクール構想」のおかげで、来年度からは小中高全ての生徒にパソコンが1台ずつ行き渡る状況が生じる。 |
| | そうすると、今まで難しかったオンラインでのちょっとした講演会が可能となる。例えば、「See Visionsの東海林社長の話を聞いてみよう」という形で、学校の昼休みに5分程度でちょっとした講演会をやれば、秋田県にはこんなビジネスがあるのか、という意識ができる。 |
| | そういった状況も生かして「KocchAke!」の取組を更にグレードアップしていけば良いと思う。 |
| 吉澤清良委員 (観光・交流部会) | 全国の頑張っている大学から話を聞く機会があり、コーディネート機能、マッチング機能を大学の中で抱えていることも多いのだが、それを専門・専任でやっている人が少ないこともあり、なかなか十分に機能していないという話も聞く。そういう意味で、公的機関がその役割を支援することをぜひ考えてもらいたいと思う。 |
| 竹下香織委員 (未来創造・地域社会部会) | あきた未来創造部で所管している女子活交流会の事業において、実際に学生と企業の間で立ってコーディネーターやファシリテーターの役割を担っている。実際に学生と企業担当者の話をつなぐ際に興味深いのが、学生は質問したいことは結構あるのだが、何を切り口にしたら良いのか分からない、という問題がある。 |
| | 学生に何か質問はないですかと聞くと、会社員としての働き方のような身近な部分の質問が多い。最初の切り口を見つけられると話も弾んでいき、リアリティある話を聞くことができるのだが、なかなかそのような質問に当たらないという場面もあり、コーディネーターとしては学生の質問したい内容を引き出してあげることに注力している。 |
| | 学生の意向は、おそらく「KocchAke!」に掲載されるような情報よりも、もう少しリアルで生活に密着した話を聞きたいのではないかと感じる。「ぶっちゃけどうなんですか？」という話が出てくると、その回は盛り上がる。中にはお金のことだったり、休みは取りやすいか、どういう生活を送っているのか、といった質問も結構出てくる。 |
| | 企業としては会社の紹介や会社の目指す姿を話したりすることがあるが、学生にとっては自分自身が実際にその企業で働いたときにどういう生活になるのか、ということ想像したいのではないかと感じる場面がある。 |
| | コーディネーターの育成という意味では、学生が実際に秋田で働いていく5年後、10年後の姿を描けるようにするため、コーディネーターの役割というのは結構大きいのではないかと感じている。 |

| 発言者 | 発言要旨 |
|-----------------------|--|
| 豊田哲也委員 (教育・人づくり部会) | <p>高校生、大学生だった頃を思い出してもらえれば分かると思うが、高校生、大学生はまだ、物事をなかなか具体的にイメージできていない。農業と聞いても、米や麦などを作っているシーンはイメージできても、現場でどれくらいの人数でどういう作業をして、どれくらいの時間感覚で、人々がどれくらいの辛い顔、あるいは笑顔をしてやっているかは分からないもので、それは当然である。</p> |
| | <p>オンラインでいろいろなことができるようになってきているため、製造業よりは農業の方が学生へのキャリアガイダンスはやりやすいと思う。実際に頭の上にかメラを付けて、現場を見せながら作業工程やプライベートなどについて話をすることもオンラインなら簡単に出来る。</p> |
| | <p>昔これをやろうとしたら、学生が相当なコミットをして来年からの職場研修に行くようなイメージだったが、今ならコミットをしないで気軽にオンラインバーチャルアグリツアーのような感覚でやることができる。これに100人集まれば、そのうち10人くらいはフォローしてくれるのではないか。小さな企業や経営体が多い農業こそ、キャリア教育にオンラインを生かしていけるのではないか。</p> |
| | <p>具体性を持たせるためには現場を見せることが大事で、オンラインのキャリアセミナーが非常に大きな効果を発する。「KocchAke!」のサイトにそういう機能を足すか、何らかの形で実現していただきたい。</p> |